

●ドストエフスキーの散歩道 ②●

ПРОГУЛЯЕМСЯ ПО ЛИТЕРАТУРЕ

◆ドストエフスキーの作品の題名には「罪」と翻訳しうる単語が2つ登場します。その1つは『罪と罰』〈Преступление и наказание〉と、『カラマーゾフの兄弟』〈Братья Карамазовы〉の кара という言葉です。◆преступление という言葉は、пре-という接頭辞と ступление という単語からなりたっています。пре-は、越えるという移動の意味を表現する接頭辞で、ступление は英語の s t e p と同じ語源です。つまり、преступление は最も日本語の意味に近いのが「踏み越える」という言葉なのです。◆一方、кара という言葉は「神罰」というのが主な意味ですが、この語源はチュルク語で黒という意味、さらには性器を表現する言葉、宗教儀式で使用される聖油という定義づけもなされています。英語の c o l o r という言葉とも関連性があるかもしれません。◆そういう点で作品を見てみると、『罪と罰』ではラスコーリニコフが自らの人間としての権利以上の行為を行った、つまりは将来の善行のためとはいえ、人殺しを行ったという、人として一線を越えた行為に対する罰がテーマとなっています。◆『カラマーゾフの兄弟』では、人間がみな生まれながらに持つ好色、言いかえれば生殖本能に根ざした、絶え間ない人類の不和の宿命を描いているというテーマの違いがはっきりとするでしょう。

(桃井 富範)